

最高のまめ科牧草

アルファルファをもっと作りましょう!!

良い自給飼料をたくさん収穫したいと思うのは、すべての酪農家の願いだと思います。すぐれた飼料作物の品種を選び、組合せ、肥料をやり、適期に刈取って利用するのなら、まだまだ質の良い自給飼料を増産出来るはずで、数年前と異なり、多くの酪農家はこの点を充分研究するようになり、良い牧草や青刈作物がどんどん利用されるようになり、10a 当り生産量は北海道でも、6,000キロから10,000キロ、暖地では20,000キロも30,000キロも生産を挙げる人が多くなってまいりました。このことが酪農経営をどんなに豊かにしているか、それは図り知れないものがあると思うのです。

ところで、この飼料作物の増産の基本的な要件は、良い飼料作物を選ぶことであります。良い飼料作物に良い管理を加えて、始めて最高の収穫をあげることが出来ることは申すまでもありません。現在利用されている飼料作物は、それぞれ良い特徴をもっており、すぐれたものが多いのですが、世界中の酪農家の長い経験から、最もすぐれた特徴をもっていると考えられる飼料作物は、ルーサン(アルファルファ)ということができるようです。

多年生のまめ科牧草ルーサンは、世界中で広く利用され、最も多く栽培されているアメリカでは、年間2億万ポンドの種子が消費されています。何故そのように広く利用されているのか、その特徴をあげてみましょう。

1 多年生

条件が良ければ10年以上も生存します。そして7~8年に亘って収量がおとろえません。他の牧草類は2~3年目から生産が上がり、5年目ぐらいから収量が落ちて来ますが、ルーサンは3年目から、さかんに分蘖を始め、さかんに生長し、この状態が7~8年も続くのです。多年に亘って生産がおとろえないのは、その根がきわめて深く地中に繁茂するからです。

2 再生力が強い

牧草の値打ちは何回も刈れるということですが、気候によって異なりますが、2~3回ないし4~5回、ラジノクロバエの場合は10回以上も刈ることができます。ルーサンの場合も、まめ科牧草の中では、ラジノクロバエに次いで刈回数が多いもので、刈りおくれさえしなければ、

寒地で4回、暖地では6~7回以上刈ることが出来ます。これは地中の根の貯蔵養分が多いことと、根際にたくさん新しい芽を持っているからです。

3 栄養成分が多い

ルーサンはやや小さい葉をたくさんつけます。この葉の中に蛋白、糖分その他の養分が含まれているのですが、他の牧草にくらべて、特に蛋白、カルシウム、ビタミンの含量が多く、その乾草の栄養価はフスマにもおとらないものなのです。しかもカルシウムやビタミンが含まれていますから、そのまま完全配合飼料といっても過言ではありません。ルーサン乾草の粉末(ミール)が濃厚飼料の配合原料に使われている事実はそのことを物語っています。

4 地力増進に役立つ

多年生も再生力の強さもまた栄養分の多いことも、地中に深くひろがり、のびている根のおかげですが、この豊富な根には、無数の根瘤菌が寄生し、根の力で深層の土壌が柔らかくなると共に、土壌中の有機物を多くし、地力向上に役立つしてくれるのです。他のクロバエ類ももちろん、土壌改善に役立ちますが、ルーサンのように深く土壌を改善してくれるものはありません。

5 暑熱、乾燥によく耐える

ルーサンの原産地は、中央アジアの亜熱帯地方といわれています。原産地がそのようなところであり、しかも前述のように深い根を持っていますから、暑熱や乾燥には良く耐えて、夏枯れ時期や乾燥地で充分利用ができるのです。元来が暖地の草でしたが、今では品種改良が進み、耐寒性の強いものも出来て、北は北海道の北端から南は九州の南端まで、やり方さえ正しければ、さかんな生育を見ることが出来ます。

このようにすぐれたルーサンが、何故日本であまり普及していないか、それは一つには、今まで余り知られていなかったことと、もう一つはルーサンの良いところばかり知って、欠点を知らなかったからでありましょう。欠点を克服することが、ルーサン栽培の鍵であり、ルーサン増産のポイントということ出来ます。(編集部)